

— 広告 —



徳山 美結 (とくやま みゆ) 金沢工業大学大学院工学研究科 システム設計工学専攻 博士前期課程一年 石川県 国際高等学校出身

# 憧れを形にする意思と実践 デジタルアートを究めたい

徳山さんは、アートや工芸作品に躍動感を吹きこむプロジェクト・マッピングの研究に取り組む。昨年十月、金沢市などが主催する「KOGEI デジタルアートミュージアム」に、メディア情報学科・出原立子研究室の一員として参加し、金工作家の手がけた関節まで動く精巧な自在置物のタコを、水中で生きているかのように演出して来

場者を魅了した。

「展示台の下に設置したセンサーで人の接近を感じし、タコが泡を吐いたり、周りを魚が泳いだりするプロジェクト・マッピングを制作しました。小さな子どもさんが驚きや歓声を次々と上げ、本当にうれしかったです」  
この時の達成感が、これから歩む自らの道をくつきりと照らし出

した。それは人の五感に働きかけ、感動を深くするプロジェクト・マッピングのクリエイターである。その知識と技術を磨くために大学院に進み、現在、工芸とデジタルの融合で鑑賞体験がどう変わるかをテーマに研究を掘り下げている。

憧れを憧れで終わらせないところが、徳山さんの真骨頂だと思う。中学時代、A.L.T (外国語指導助手)との出会いをきっかけに英語が好きになり、国際高等学校に進学した。三年次を過ごすニュージーランド留学に強く引かれてだったが、新型コロナウイルスの世界的な流行で中止となった。

「残念で残念で。でも、あきらめずに他の留学プログラムに応募し、四年次にイギリスへ三週間の語学研修に行くことができました」

現地で多国籍の学生とふれ合い、文化の違いや相互理解の大切さを肌で感じたという。国際高専卒業後、編入したKITでも四年次の

昨年夏、ドイツへ二週間の短期留学に出かけた。午前中は講義、午後は企業視察があり、製造や開発など広範な現場を体感し、海外も視野に入れた自身の将来像を描くことができた。

プロジェクト・マッピングに憧れた原点を聞いた。「デイズニールランドのショーで初めて『すごい！』と衝撃を受け、リピーターになつてしまいました。世界中で愛されるキャラクターに新たな価値を付加したデジタル技術のバトンを、今度は徳山さんたちが受け継いでいくわけだ。

出原研究室は今年の「KOGEI デジタルアートミュージアム」にも参加する。ユネスコのクラフト創造都市として世界が認めた金沢の仕事を、リボンするようなサブライズに立ち会えるかもしれない。

**金沢工業大学**  
石川県野々市市扇が丘七二一  
電話番号(076)248-1100

KIT  
キャンパス  
レポート ①  
文・杉村裕之